

ラオスではなぜ水田の野草を移植して育てるのか —ドメスティケーションの視点からの考察—

小坂 康之 氏

(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)

ドメスティケーションの研究は、野生動植物の家畜化・栽培化の過程を分析し、人と自然の相互作用の関係を明らかにしてきた。植物のドメスティケーションの先行研究では、主要な栽培植物が過去に栽培化された経緯について、その祖先野生種との関係を遺伝的に分析するものが多い。しかし先行研究では「なぜ人と動植物とのあいだで生物学的・文化的プロセスを伴う多面的な関係ができたのか」はまだ十分に明らかにされていない。そこで本発表では、ラオスの水田植物が移植して育てられる事例に着目し、採集から栽培へ転換する契機を分析し、ドメスティケーションの可能性を検証する。

日時

2021年6月18日(金)
17:00～18:30



開催方法

ZOOMによる開催です。
下記サイトより事前にお申し込み
ください。



<お申込み先>

<https://forms.gle/eEdmK1RqZnuEcCE37>
(研究会当日15:00締め切り)

(共催：科研費基盤研究B一般「アジアにおける公正で持続可能なフードシステム構築のための農と食の総合的研究」/ 京都大学融合チーム研究プログラム SPIRITS2021「環境・健康志向型ドメスティケーション研究拠点の構築」)